



社会科学研究部報

令和6年7月8日
浜松市教育研究会 社会科学研究部

令和6年度 第1回 小学校社会科学研究部 研修会

5月22日（水）に浜松市教育会館にて、今年度の研修テーマの趣旨や研修計画について説明しました。また、浜松市教育センター指導主事より授業改善の講話をいただきました。

1 顧問校長あいさつ

気田小学校 校長 堀部 憲一

社会科学研究部の研修のテーマや活動について、社会科学研究部に所属する教師が十分に理解し、研修から得た学びが子供たちの学びにつながるようにしていきたい。また、研修を通して、「社会科の力が身に付いた」と教師自身が感じられる研修会にしていきたい。



2 令和6年度研修テーマの趣旨説明

鹿玉小学校 教諭 小野 弘太郎

意欲的に社会的事象を追究する児童とは、問いを見出して予想を立てる姿や、様々な方法で調べたり、方法や結果を吟味したりする姿が挙げられる。未来を問い続ける児童は、高学年を例に説明すると、解決策を考える際、実現不可能な夢物語で終わらせるのではなく、自分ができることを考える姿である。



3 講話「社会科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の実践について」

浜松市教育センター指導主事 鈴木 恵介氏

「令和の日本型学校教育」は、知識を伝達するという従来の学習スタイルではなく、子供の興味関心に基づいた主体的な学習スタイルである。授業をデザインするためのポイントは3つある。

1つ目は「学習者中心のアプローチ」である。児童生徒一人一人の興味・関心を引き出し、自発的に学ぶ姿勢を育てていく。そのためには、ICTを活用し、個々の進度や理解度に合わせた教材を提供することが一つの方法である。

2つ目は「協働学習の推進」である。グループ活動やディスカッションを通じて、コミュニケーション能力や協調性を育てていく。異なる意見を尊重し、他者と協力して問題解決する力を養いたい。

3つ目は「柔軟な授業計画」である。授業の進行状況に応じて柔軟に内容や方法を調整するためにはフィードバックを重視し、生徒の反応を見ながら授業を進めることが重要である。

この3つのポイントにより、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びにつながり、児童生徒の資質・能力の育成につながると考える。



4 講評

三ヶ日東小学校 校長 中村 圭介

社会科は内容教科でもあり、あらかじめ、社会的事象を学んだり、目標を達成したりするための手立てを考える必要がある。これらを教師が一方的に教えるのではなく、児童が自分で学んだという思いをもてるような仕掛けが大切だ。講話の通り、これまでの授業スタイルを変化させる必要があり、各自で試行錯誤しながら実践を進めてもらいたい。



（文責：光明小学校 木下尋之・尾奈小学校 上島亮介）